

## 「第15回関東地方ダム等管理フォローアップ委員会」 の開催結果の公表について

### 記者発表資料

平成18年12月8日に「第15回関東地方ダム等管理フォローアップ委員会」を開催し、荒川調節池総合開発施設・二瀬ダムに関する定期報告及び草木ダム貯水池水質保全事業に関する事後評価についてのご審議を頂きました。

審議結果を受けた、最終報告は別紙のとおりです。

平成18年12月25日  
国土交通省関東地方整備局河川部  
独立行政法人水資源機構

#### 発表記者クラブ

竹芝記者クラブ・横浜海事記者クラブ・神奈川建設記者会  
水資源記者クラブ・刀水クラブ・埼玉県政記者クラブ

#### 問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 河川部 河川管理課  
TEL 048 (601) 3151 (代表)  
048 (600) 1338 (夜間直通)  
河川管理課長補佐 さとう まさる 佐藤 勝 (内線 3754)

独立行政法人 水資源機構 管理事業部  
TEL 048 (600) 6543  
管理企画課長補佐 たつざわひろまさ 竜澤宏昌 (内線 3302)

## 第15回関東地方ダム等管理フォローアップ委員会

1 日 時 平成18年12月8日(金) 10:00~12:00

2 場 所 ホテルはあといん乃木坂 地下1階 フルール

### 3 出席者

〔委員長〕	みやむら ただし 宮村 忠	(関東学院大学教授)
〔委員〕	いけだ しゅんすけ 池田 駿介	(東京工業大学教授)
	いけや ほうぶん 池谷 奉文	(財団法人日本生態系協会会長)
	おき たいかん 沖 大幹	(東京大学助教授)
	かしわや まもる 柏谷 衛	(東京理科大学教授)
	はやし ふじお 林 不二雄	(高崎経済大学講師)
	まえだ おさむ 前田 修	(元筑波大学教授)
	まきばやし いさお 牧林 功	(埼玉昆虫談話会顧問)
	めくみ さゆり 恵 小百合	(江戸川大学教授)
	もりいずみ ようこ 森泉 陽子	(神奈川大学教授)
	もりした いさむ 盛下 勇	(原生動物応用研究センター 主宰)

(敬称略 五十音順) (役職 平成18年12月1日現在)

〔国土交通省関東地方整備局〕 中島威夫局長、河崎和明河川部長 他

〔独立行政法人水資源機構〕 青山俊樹理事長、三木正博管理事業部長 他

### 4 審議結果

今回の委員会では、荒川調節池総合開発施設、二瀬ダムの定期報告及び草木ダム貯水池水質保全事業の事後評価について、ご審議を頂きました。

その結果、最終報告は、以下のとおりです。

#### ①定期報告について

##### 荒川調節池総合開発施設

##### ○洪水調節

- ・荒川第一調節池は、平成11年8月洪水において洪水調節を行い、荒川の水位低減に効果を発揮している。
- ・これにより、計画における洪水調節の目的を達成できると考える。特に荒川第一調節池は荒川下流部に位置しており、人口資産の集中する荒川下流部の治水安全度の向上

に大きく寄与すると考える。

#### ○利水補給

- ・荒川調節池総合開発施設は、平成8年の渇水時において、水道用水の安定的な取水を可能にしており、利水補給の効果を発揮している。

#### ○底泥の堆積状況

- ・貯水池内の底泥の堆積状況については、必要に応じて深淺測量等により、引き続き監視していく。

#### ○水質

- ・荒川貯水池の水質は、窒素とリンの値が、河川からの流入後に高濃度になる傾向があるものの、富栄養化現象は起きておらず、利水補給地点である秋ヶ瀬堰上流の水質基準を概ね達成しており、水道水源としても良好であり、経年的にも安定している。
- ・また、下流河川の水質は、荒川調節池総合開発施設の運用後改善されている。
- ・水質状況を把握するため監視を継続していく。

#### ○生物

- ・荒川調節池総合開発施設は、多くの生物の生息場となっている。
- ・自然保全ゾーンにおいては、多くの水鳥が見られる等、都市の貴重な自然地の拠点となっており、周辺地域の生物の多様化に大きな役割を果たしている。
- ・荒川調節池総合開発施設については、環境保全対策を実施しているが、特に、ビオトープは、貯水池では確認されない水生昆虫類等の生息地として機能している。
- ・今後も河川水辺の国勢調査において継続して調査していく。

#### ○利用状況

- ・荒川調節池総合開発施設は大都市圏内に位置し、貯水池周辺の環境整備も進んでおり、地域のレクリエーション、スポーツ活動の拠点の他、自然環境の観察、学習の場として多くの人に利用されている。
- ・引続き適正に利用されるよう各施設を管理していく。

### 二瀬ダム

#### ○洪水調節

- ・二瀬ダムは、昭和37年の管理開始以来、38回の洪水調節を行い、荒川の水位低減に効果を発揮している。

#### ○利水補給

- ・二瀬ダムは熊谷市、川本町、江南町等約17,000haのかんがい用水の水源として安定的な取水を可能にしており、利水補給の効果を発揮している。

#### ○堆砂

- ・ダム湖内の堆砂状況については、引き続き監視していく。
- ・堆積土砂の浚渫及び搬出については、引き続き実施していく。

- ・搬出土砂の一部についての下流河川への土砂掃流試験については、下流河川環境をモニタリングしながら引き続き実施していく。
- ・根本的な堆砂対策については、調査・検討を実施していく。

#### ○水質

- ・二瀬ダム貯水池は近年（H13年～H17年）の傾向として各水質指標とも良好であり、将来的にも負荷は低下傾向にあり、大きな変化は無いと考えられる。
- ・今後も水質状況を把握するため監視を継続していく。
- ・放流水温の低下及び濁水長期化現象を緩和するため、選択取水設備の設置を実施する。

#### ○生物

- ・二瀬ダム周辺における動植物の生息・生育状況は、全般的に顕著な変化は認められない。なお、今後も河川水辺の国勢調査において継続して調査していく。

#### ○水源地域動態

- ・二瀬ダム水源地域の活性化のためには、水源地域ビジョンにおける施策等の具体化が必要であり、ダム管理者として実施可能な施策について協力していく。

#### ○その他項目

- ・貯水池周辺の地域の地すべり対策については、監視を引き続き実施していく。
- ・今後は捕捉した流木の効果的な処理法を検討する。

#### ○今後の課題

##### （今後のダムの管理）

- ・ダム湖内の堆砂状況については、引き続き監視していく。
- ・堆積土砂の浚渫及び搬出については、引き続き実施していく。
- ・搬出土砂の一部についての下流河川への土砂掃流試験については、下流河川環境をモニタリングしながら引き続き実施していく。
- ・根本的な堆砂対策については、調査・検討を実施していく。

## ②事後評価について

### 草木ダム貯水池水質保全事業

- ・本事業は、施設の本格運用後、フォルミディウムが大幅に抑制され、貯水池の水質改善がされている。
- ・なお、下流の上水道においてもこの改善効果は大きい。
- ・以上の結果により、「草木ダム貯水池水質保全事業（クリーンアップレイク事業）」は十分効果を発揮している。
- ・今後も、施設の適切な運用を実施していく。

## 5 委員会資料について

委員会資料は、下記ホームページ内にて掲載しております。

- ◎荒川調節池総合開発施設・二瀬ダム・草木ダム貯水池保全事業関係  
国土交通省関東地方整備局  
<http://www.ktr.mlit.go.jp/kyoku/menu.htm>
- ◎荒川調節池総合開発施設関係  
国土交通省荒川上流河川事務所  
<http://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/>
- ◎二瀬ダム関係  
国土交通省二瀬ダム管理所  
<http://www.ktr.mlit.go.jp/futase/>
- ◎草木ダム貯水池保全事業関係  
国土交通省渡良瀬川河川事務所  
<http://www.ktr.mlit.go.jp/watarase/>

## 6 定期報告書の閲覧について

定期報告書及び事後評価説明資料につきましては、下記にて閲覧が可能です。

- ◎荒川調節池総合開発施設定期報告書  
国土交通省荒川上流河川事務所  
埼玉県川越市新宿町3-12  
電話049-246-6361
- ◎二瀬ダム定期報告書  
国土交通省二瀬ダム管理所  
埼玉県秩父市大滝3875-1  
電話0494-55-0001
- ◎草木ダム貯水池保全事業事後評価説明資料  
国土交通省渡良瀬川河川事務所  
栃木県足利市田中町661-3  
電話0284-73-5551